



ブランディング事業モニターツアー実施報告

一般社団法人 十日町市観光協会

モニターツアー実施の目的

市民参加WSやブランディング部会を通じて見えてきたブランドビジョンの要素が、ユーザーにどのような評価を得るのか、ツアーを通じて検証する。

検証の手法

ブランドビジョンの要素から重要と思われる要素を1つ選択し、それに基づく仮説を立てる。

その仮説を軸としたツアーを組立て、意思決定プロセスや嗜好が異なるであろう参加者を募り、評価をしてもらう。





雪国のくらしや 文化が残るまち

ビジョンを元にした仮説

3

- ・雪と向き合うことにより得られる価値観が地域の魅力となり得る。
- ・雪をはじめとした四季を通じて自然と共生するくらし（SATOYAMA）は、サステナビリティの面からも注目をされる。
- ・雪国でのくらしにより育まれた人間性や土壌が、新しい物を生み出す力（クリエイティビティ）の根源になっている。

ツアー概要

【タイトル】
雪国とおかまちが秘める魅力を探るモニターツアー

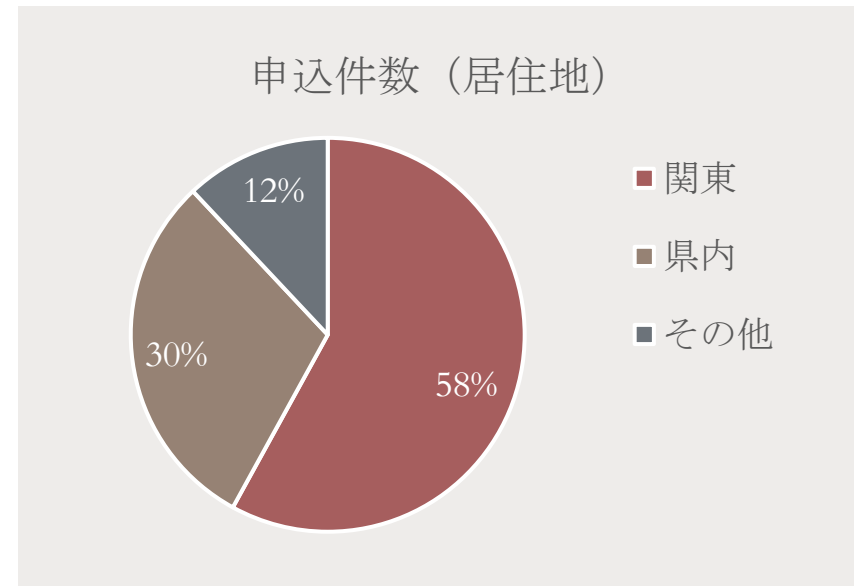
【実施日】
2024年3月2日(土)～3日(日) 1泊2日

【参加費】
大人 5,000円(1人あたり)、小学生以下 無料



【参加人数】 9組 24名

【申込人数】 50組 138名





くらしと密接した新たな滞在施設「雪原学舎」

学校に泊まる教室グランピング

廃校をリノベーションし、この冬オープンしたばかりの『冬』に特化したキャンプ・グランピング施設。
学校という地域のくらしの中心となる施設に滞在することで、地域のくらしや日常に入り込む体験と、スキーやスノーボードだけでなく雪遊びの可能性を体験。

大人も子供も雪遊び！「雪国体験」

ほんやら洞体験と雪遊び

ホンヤラドウでの雪国体験や、かんじき体験、雪遊びなど、雪国ならではの冬のあそびを満喫。（NPO法人スリージー）





雪国の根源「雪と縄文人の暮らしを知る」

冬の遺跡で縄文人体験

国宝火焰型土器が出土した笹山遺跡の復元住居で、博物館の学芸員による解説を聞きながら、かつて縄文人がしていたように土器を囲む。この雪深い地で縄文人は何を感じ暮していたのか、思いを馳せる時間となった。



雪の恵みが育んだ美を体験「友禅染め体験」

自分だけの友禅タペストリー作り

雪とつながりの深い織物産業について知る為に、工場見学と友禅染を体験。オリジナルのタペストリーを作る体験では、大人も子供も集中し自分だけの友禅タペストリーを完成させた。



雪国の知恵を味わう「雪見御膳」

郷土料理でおもてなし

会場となる集落に行き、地域のお母さん方による郷土料理を味わう冬の芸術祭プログラム。お母さん方が配膳に回ってくれるので、料理について教えてもらったりお話をしたり、地域の方との交流を深めることができる体験型の食事時間を過ごした。

雪国とおかまちの暮らしを振り返る

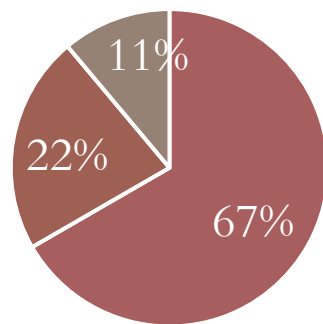
十日町市博物館TOPPAKU

2日間の締めくくりには十日町市博物館に向かい、学芸員の説明とともに、ツアーで見聞きしてきた内容を振り返った。



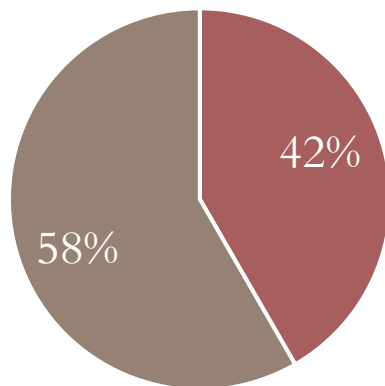
参加者について（9組24名）

居住地



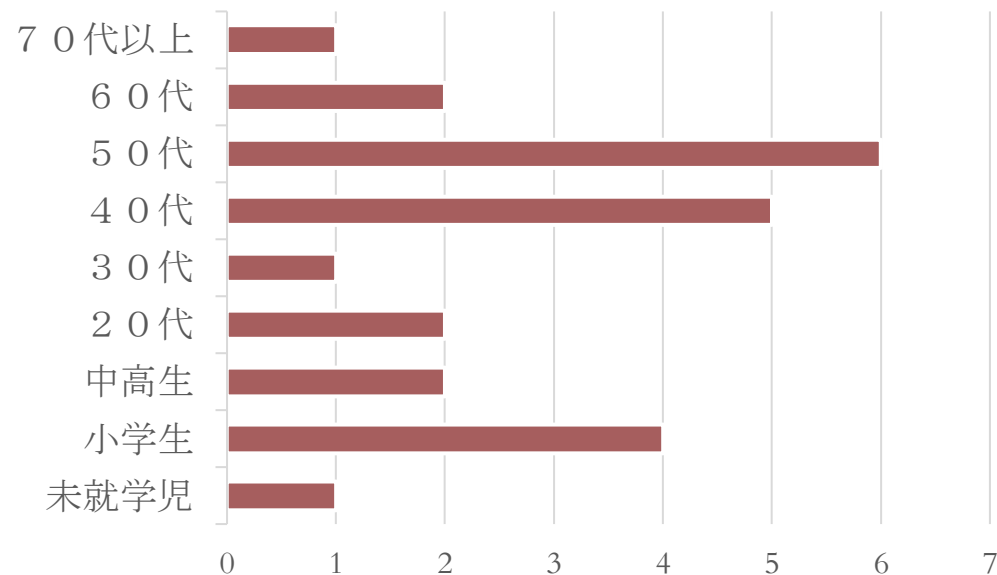
- 関東
- 新潟県
- その他（富山県）

性別

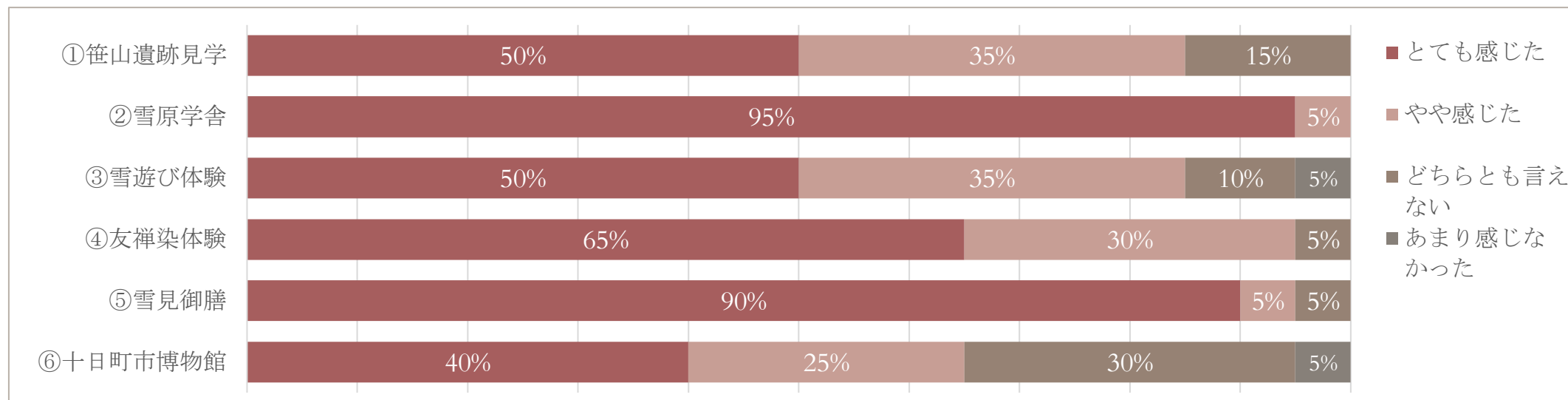


- 男性
- 女性

年代



アンケート結果（コンテンツの独自性）



① 十日町という豪雪地帯だからこそ見ることができる冬の縄文時代を体験することができたから（富山県：10代女性）

③ ほんやらどうでの接待コレはいい。お餅焼いてくれて甘酒も。両方僕の大好物だからうれしかった。ほんやらどうでは昔からの伝統のお話が聞けて良かった（東京都：小学生）

⑤ 菊芋が入った変わったポテトサラダを食べさせてもらったり、十日町の雪の下で育ったからこそその甘い大根を食べさせてもらったり、お料理一つ一つが丁寧で、作り方も知りたくなるくらい興味が湧きました。（新潟県：30代女性）

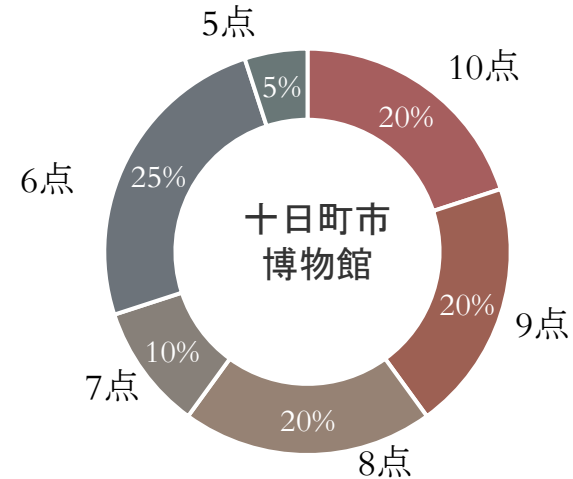
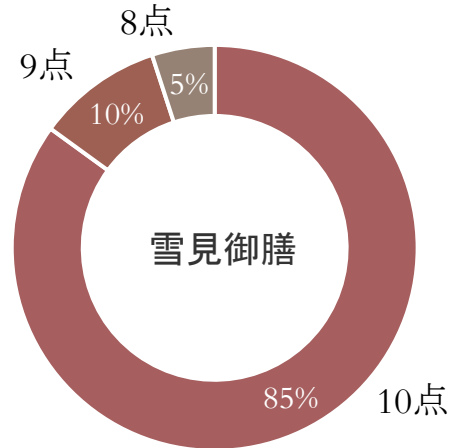
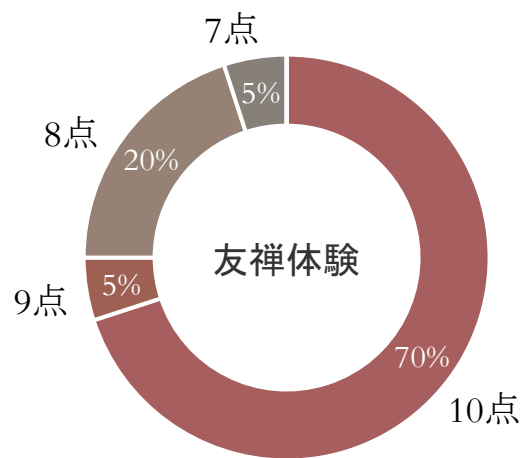
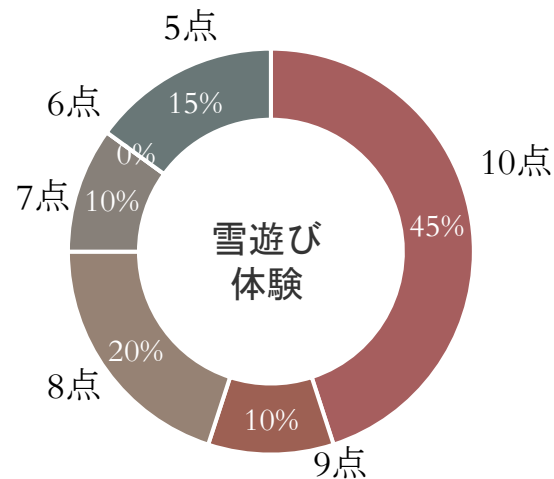
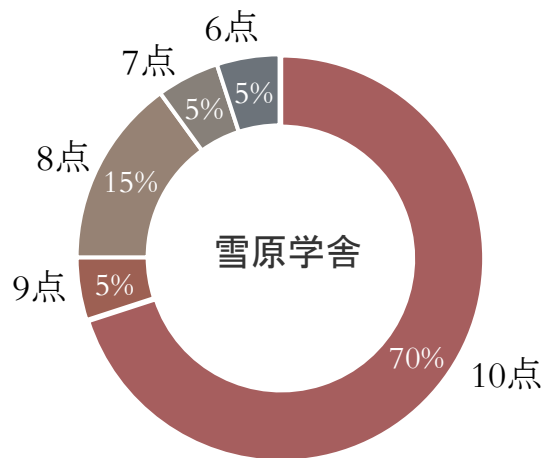
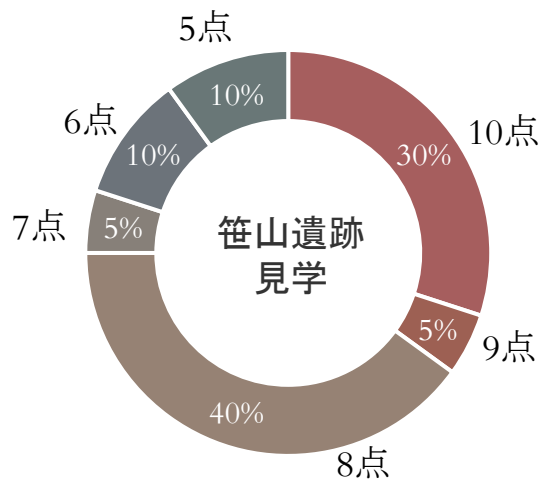
② 廊下が寒かったり水場が共同だったり普通なら不便を感じるようなポイントも、屋内キャンプと言うコンセプトで逆に魅力にさえなっているように思い、非常に良いと思った。（東京都：20代男性）

④ 京都や金沢でも友禅染の体験ができます。京都や金沢との違いを前面に出せるとよいのでは？（東京都：50代女性）

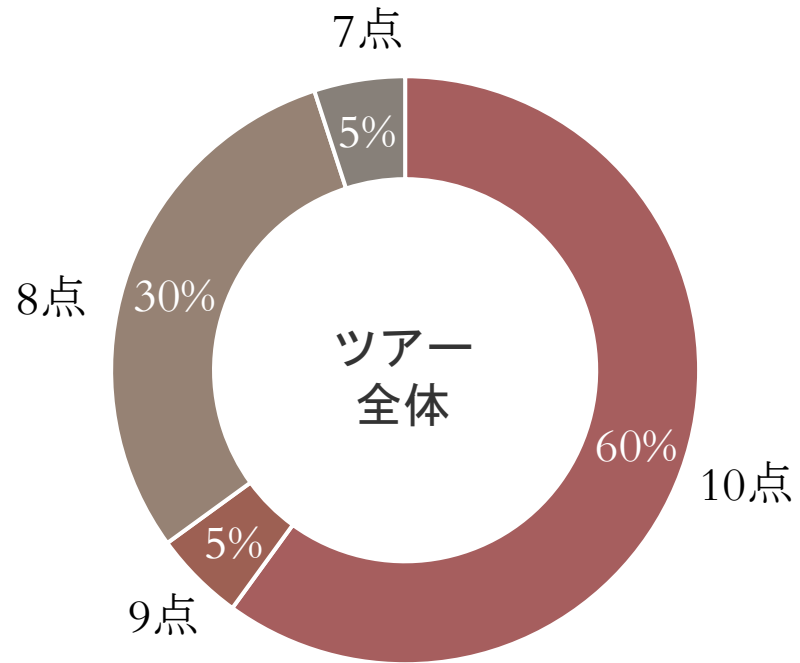
⑥ 最近の博物館は体験的に学ぶことは多いためその点での独自性は高くはない印象。ただし、国宝があるという点は独自性になると思う。

アンケート結果（顧客満足度）

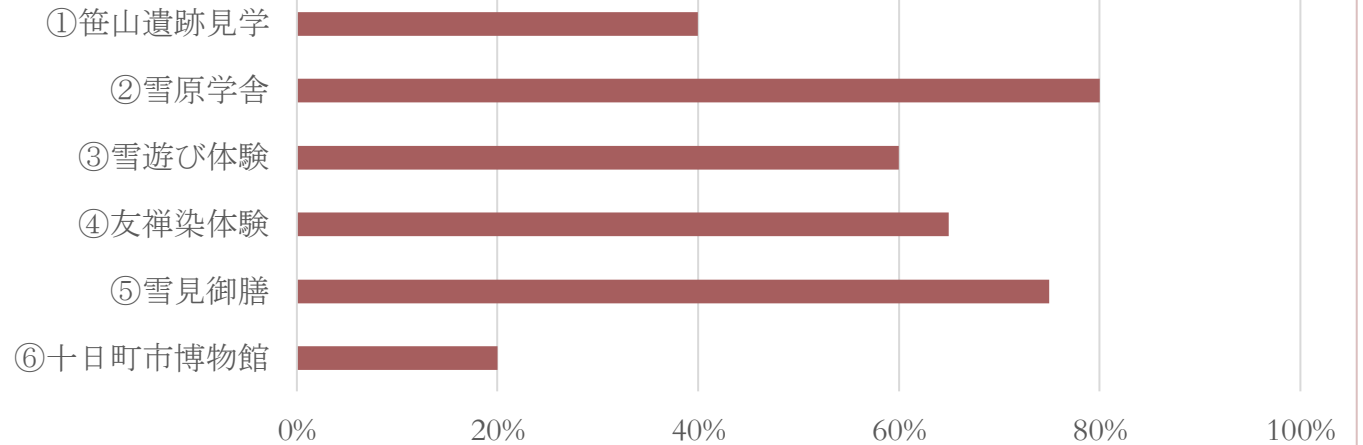
他の人に勧めたいか（思う：10点～思わない：0点）



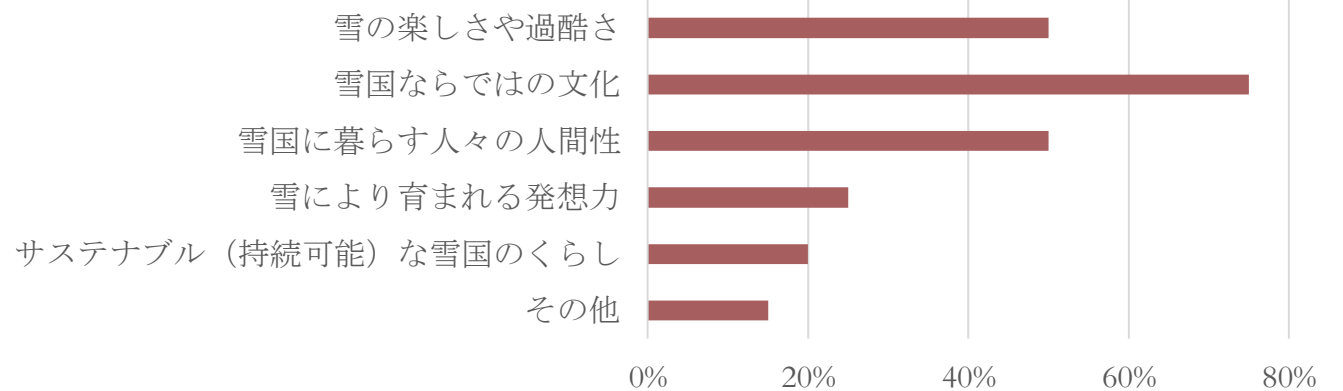
顧客満足度
他の人に勧めたいか
(思う：10点～思わない：0点)



今回のツアーで特に良かった施設・体験



今回のツアーに参加して印象に残ったこと



参加者の声

20代はツアーに参加するという考えを持つ人が少ない傾向にあるので、各観光コンテンツを単体でアプローチしていく必要があると思う。複数のコンテンツに興味を持った上でツアーを知れば、様々な観点から個々での観光からツアー参加に切替える案も生まれそう。（千葉県：20代女性）

ツアーだと時間に追われたり、興味ないものが含まれていたり、行きたいところに行けなかったり、他の参加者とのコミュニケーションに対する煩わしさを感じたりする。一方で、個人では行きづらいところに行けたり解説を聞けたり地域の方と交流できたりと、ツアーならではの良さもあると感じた。（東京都：20代男性）

今回は健常者向けのツアーだったが、我が家には車いす生活の子供がいるのでそのような子でも楽しめるようなツアーを企画してほしい。ひとつひとつの体験が少し駆け足だったと感じた。色々体験できたのはよかったが、特に雪遊びは、子供が一番楽しみにしていたことでありもう少し時間があると嬉しかった。バスの中でも色々十日町の情報を教えてくれて退屈することなく、移動時間も楽しかった。（千葉県：40代男性）

同じ内容で外国人向けのツアーがあっても喜ばれると思う。外国人はビーガンが多いが、日本の伝統的な料理はほぼビーガン。とても喜ばれると思います。（妙高市〔オーストラリア出身〕：50代男性）

今後の観光については課題も感じました。

- ・雪原学舎はとても素敵な場所ですがお値段が厳しい。
- ・車を運転できない（特に雪道）グループの足をどうするか。
- ・遺跡や博物館は、個人で行っても解説を聴ける機会が欲しい。
- ・雪見御膳のように地域の方々と触れ合える機会が欲しい。

うまく言えないのですが、これからの観光の目的は「人」と「場」だと思います。「人」は地域の方、「場」は場所そのものではなくそこで生まれる居場所です。例えば、近くの民宿や民泊に泊まって、地元の方に雪掘りの仕方を教わる→地元の方と仲良くなって、毎年雪掘りの手伝いに来る、とか。体験を通して地域の方とお近づきになれば、何となくそこが「自分の居場所」と見え、また訪れたいくなるように思います。（東京都:50代女性）